

おうちで作成 ネットで申告



「税に関する高校生の作文」 福岡国税局長賞

税を通じて支える命

長崎県立 五島海陽高等学校

一年

泉 和穂

「八十二万円」私がこの夏十二日間で使った金額だ。

「大丈夫？」運動場の真ん中で膝を抱え込んだ私にたくさんの人が駆け寄って来てくれる姿が見えた。「またか」私は「大丈夫」と答えるのと同時に心の中でそう思った。ついこないだ完治したはずのけががまた再発したのだ。大丈夫と答えたもののあまりの痛みに行くことさえできず、担架で保健室に運ばれ、病院まで救急車で運ばれた。その後、大学病院に行き、夏に手術を行うことが決定した。そして、この金額を入院・手術で十二日間で使った。

八十二万円この金額すべてを自己負担しないといけなかったら私は、手術をしなかったかもしれない。私が手術を受けられたのは、高額療養制度というものを利用できたからだ。高額療養制度とは、家計の負担が重くならないよう、支払う医療費が一ヶ月で一定の金額を超えた場合その超えた金額を支給してくれる制度だ。私は、今回膝の手術で、命に関わるようなけがではなかった。しかし、入院していたときには、ブザーが鳴り響いたり、救急車の赤いランプが病院を照らしていたり、他にも、妊婦さんや小さな赤ちゃんの泣き声、ICUに走るお医者さんや看護婦さんもたくさん見た。中には、命に関わる病气やけがの人もいただろう。その多くの人が高額療養制度を利用してはいる。この制度は、最善の治療

を受け、大切な人とかけがえのない日々を過ごすためにとっても重要な役割をはたしている。病气を抱えた人々が高額な医療費の支払いのために病気の治療を専念して受けられないというようなことがあってはいけないと強く思う。そして、この制度を利用する側は、皆が一生懸命働いて納税してくれたお金を使うことを理解し、感謝して治療を受けることが必要だと思う。

私は、今回入院と手術を通して自分自身と税の強い関わり、税の大切さを知った。今はまだ納税してくれている人に支えられていることが多い。七年後には、働いて深く税と関わり、支える側になる。税金を納めるとき私は、マイナスイメージではなく、プラスな気持ちでいたい。「税金を通して私は命を支えている」そう胸を張って笑顔で税金を払える素晴らしい大人になりたい。

今、高額療養制度に気づき、理解し、将来について考えることができただことで、私の将来は確実に明るくなったと思う。そして、私は、今回の経験を通して知れたこと、考えたことを伝えていき明るい未来を目指していきたい。